

日 時 令和 8 年 9 月 8 日（火） 15：30～17：00

場 所 岐阜市役所 6－1 大会議室

|     |             |      |
|-----|-------------|------|
| 出席者 | 精神科医療機関     | 3 名  |
|     | 相談支援事業所     | 10 名 |
|     | 地域活動支援センター  | 2 名  |
|     | 基幹相談支援サテライト | 4 名  |
|     | 関係機関・団体     | 1 名  |
|     | 行政機関        | 9 名  |
|     | 合計          | 29 名 |

## ○検討テーマ

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの強化に向けて  
～若年層から取り組む『普及啓発』～

若年層のこころの健康をめぐる現状や課題について、情報共有し、身近な人がこころの不調に気づき、適切な声かけや支援につなげるため、普及啓発として、どのような取組ができるといいか等、協議を行った。

### 1. はじめに

#### （1）「にも包括（精神障害にも対応した地域包括ケアシステム）」について

にも包括の実現には、医療・保健・福祉が連携し、包括的な支援体制を構築することが重要である。既存の資源や人材が工夫してつながりを強化することで、にも包括の充実が期待される。市民のメンタルヘルスへの理解を深め、子どもの頃から心の不調や相談の重要性を学ぶことで、早期発見・早期支援につなげることができる。

#### （2）「にも包括」における岐阜市の取り組みの経過

岐阜市では、にも包括の推進に向け、令和 5 年度から協議の場や関係者へのヒアリングなどをし、課題整理を進めてきた。令和 6 年度には、課題を分析し実効性と効果の観点から「地域連携」と「普及啓発」を重点項目に設定した。地域連携として、支援者同士が継続的かつ双方向に連携できる交流の場づくりを進めている。普及啓発では、精神疾患への理解不足を課題とし、特に若年層とその周囲の大人への啓発を重視している。

#### （3）若年層の精神保健について

精神疾患の外来患者数は増加傾向で、0～24 歳では 20 年間で約 3.7 倍に増加している。精神疾患は 10 代から 20 代前半までに発症することが多く、正しい知識の普及と早期発見・早期支援が重要である。また、小児期の逆境体験は、将来の心身の健康に影響する一方、肯定的な体験や信頼できる大人との関わりがリスク軽減につながることも示されている。心のサポー

ター養成研修などを活用し、地域全体で子どもや若者を支える普及啓発の取組が必要である。

## 2. 若年層の精神保健をめぐる現状・課題の共有

### 【子ども・若者総合支援センター（エールぎふ） 才能伸長・自立支援係】

相談件数は、4年間で約2.5倍に増加している。相談内容は、自傷行為やオーバードーズ、SNSトラブル、児童虐待、家庭環境の問題、就学・就労、進学、非行・触法行為など多岐にわたる。複合的な課題を抱える保護者も多く、関わり方の改善につなげることに難しさがある。深刻なケースも多く、多くの子どもが機能不全家庭などの逆境体験を抱えているため、信頼関係の構築や遊び、家庭訪問などを通じて肯定的な体験を提供し、つなげている。課題が複雑なため、地域の関係機関と連携しながら支援を進めている。

### 【岐阜市教育委員会 学校安全支援課】

小・中学校の教育相談や不登校支援では、個別支援を関係機関同士でつなぎ、継続的な支援体制を構築することが重要な課題と感じている。地域や学校で肯定的な体験を得ることが、逆境体験を抱える子どもの将来的な疾病リスクの軽減につながることから、学校現場の役割は非常に大きい。日常的に子どもと接する教職員全体が精神保健や子どもの支援に関する正しい知識を身につけ、適切に対応できることが重要である。子どもを支える大人全体の理解と実践力を高め、より充実した支援ネットワークの構築につながると考えられる。

### 【医療法人岐阜勤労者医療協会 みどり病院（外来相談員）】

子どもや若者のメンタルヘルス支援として、1つは小児科と精神科の心理士が連携して、子のカウンセリングと保護者支援を行っている。2つ目は、ひきこもり状態にある若者を対象とし、交流と社会参加を促す機会を提供している。支援の現場では、子どもだけでなく保護者自身が精神的な課題を抱えており、親子双方への支援が必要である。また、複合的な課題を抱える家庭では、一つの機関や支援者だけで対応することが難しい。保健、福祉、医療、教育などの分野が縦割りを超えて連携し、顔の見える関係を構築することが重要である。さらに、子どもや家庭の孤立を防ぐため、メンタルヘルスの知識を持つ大人による見守りなどの支援の輪を広げていくことが求められる。

### 【地域活動支援センターふなぶせ】

精神障害のある当事者の声や主体性を大切に、活動を進めている。主な取り組みは3つあり、1つ目は「岐阜県リカバリーフォーラム」で、自らの体験や活動を発信し、精神障害への理解促進と普及啓発を図る。2つ目は、市民向けボランティア養成やピアサポーター養成などを通じ、精神疾患の知識や適切な関わり方を学ぶ機会を提供している。3つ目は地域貢献活動で、子ども食堂や地域向けイベントを実施している。子どもをきっかけに保護者と顔の見える関係を築き、精神障害分野の心理的な壁を低く、困りごとの早期把握や相談につながる環境づくりを目指している。一方で、運営に必要な人材や資金の確保、多くの利用者との関わりを次の相談支援へ発展させる仕組みづくりが課題となっている。

### 【保健センター】

妊娠期から高齢期までの住民を対象に、精神疾患などを抱えていても地域で安心して暮らせるよう支援している。実際には、親の高齢化や死去をきっかけに、初めて相談につながるケースが少なくない。本人や家族が早い段階で精神保健の知識を得て相談できていれば、選択肢が広がったと感じている。虐待防止においても、早期発見だけでなく、親子の孤立を防ぐ予防的な支援を大切にしている。メンタルヘルスについても、若い頃から「一人で抱え込まず相談してよい」という意識を広め、誰もが孤立せず必要な時に支援につなされる地域づくりを目指している。

### 【精神障がい者家族会 岐阜市あけぼの会】

精神障害当事者の家族の立場から、統合失調症を発症した家族の経験について報告があった。学校や関係機関への相談で、十分な支援が得られなかった経験から、子ども時代の困りごとへの早期対応と適切な支援の重要性が指摘された。精神障がいや生きづらさを抱える人を排除せず、一人ひとりの背景や家族の思いに理解を深めること、また困難を抱えた際には早期に相談し支援につながることの重要性について提言があった。

## 3. グループワーク

目的： 若年層の心の不調に早く気づき、必要な支援に繋げるためにはどのような取り組みができるか、若年層の精神保健に関する普及啓発として何ができるか

グループワークの視点：

- ①若年層と日常的に接する人には、どのような人がいるか
- ②その人たちが、若者のこころの不調に気づくためには何が必要か
- ③普及啓発（こころのサポーター養成研修等）を「誰に」届けると効果的か
- ④今後、地域としてまず取り組めそうなことは何か

## 4. グループワーク発表

### <A グループ>

若年層への支援について、子どもは大人よりも同世代の声に心を開きやすいため、子ども同士・若者同士のつながりを活かした支援が重要。また、学校での普及啓発はカリキュラム等の制約から実施が難しい。一方で、地域の公民館を活用し、子どもや若者が気軽に集まれる場として機能させることで、地域における普及啓発や交流の拠点づくりにつなげてはどうか。若年層を地域全体で支える視点が必要。

### <B グループ>

学校でのメンタルヘルスに関する普及啓発の重要性に加え、習い事やスポーツ少年団など学校外場で子どもが傷つくケースがある。特に、習い事の指導者は子どもと長期間関わることが多いため、メンタルヘルスへの理解を深めることが重要。また、制度や支援体制の整備だけでなく、子どもが安心して過ごせる場所や信頼できる大人とのつながりを持てる環境づくりが重要。地域の様々な大人が子どもを見守り、安心して暮らせる地域づくりが必要。

## 5. にも包括広域アドバイザーの意見

地域支援の可能性について活発な意見交換が行われた。今後は、意見やアイデアを具体的な取り組みに発展させるため、関係機関や地域資源との連携方法を検討していくことが重要である。例えば、公民館の活用については、運営者や関係者との協議を通じて実現可能性を探る必要があり、地域課題とも結び付けながら進めることが求められる。また、目指す地域像や取り組みの目的を明確にし、賛同する関係者を増やしていくことが重要である。さらに、今後はロジックモデルなどを活用しながら、にも包括の取り組みや成果を可視化し、関係者と連携して推進していく方向性が示された。

## 6. 当日の様子



## 7. 当日アンケートの結果

### (1) 本日の専門部会（テーマ別分科会）について

|           |        |
|-----------|--------|
| 良かった      | … 57 % |
| 概ね良かった    | … 38 % |
| 普通        | … 0 %  |
| あまり良くなかった | … 5 %  |
| 良くなかった    | … 0 %  |

### (2) 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムについて

|             |        |
|-------------|--------|
| 理解できた       | … 43 % |
| 概ね理解できた     | … 33 % |
| 普通          | … 24 % |
| あまり理解できなかった | … 0 %  |
| 理解できなかった    | … 0 %  |

### (3) 若年層のメンタルヘルスの課題について

|         |        |
|---------|--------|
| 理解できた   | … 38 % |
| 概ね理解できた | … 57 % |
| 普通      | … 5 %  |

あまり理解できなかった … 0 %

理解できなかった … 0 %

(4) グループワークについて

良かった … 24 %

概ね良かった … 48 %

普通 … 14 %

あまり良くなかった … 9 %

良くなかった … 5 %

(5) 若年層の普及啓発（心のサポーター養成等）について自機関で取り組めること、他機関との協働で実施できそうなこと

- ・心のサポーターを市民向け講座にて、開催できるといい。
- ・教育相談に関わる職員、学校職員全員にこころのサポーター研修を受けてもらう。日頃から子どもと関わる時の改めでの気付きがあるため多くの教職員に知ってもらう。
- ・早い段階で相談できる場所を提示。早期の症状など具体的に明記。それをチラシや公共交通機関の車両内などに掲示する。地域の自治体の回覧板などにチラシをまわしてもらう。
- ・制度や知識など持ったものからの、途切れる事ない発信など。福祉のみに限らず、地域での関わりも必要
- ・受診に来た方のご家族に対して情報提供を行っていく。
- ・相談に来られた若年者やその家族、関係機関へ情報提供する。
- ・自分1人では何もできないので、何事においても人を頼ることが必要
- ・教員サイド（不登校、いじめ、特別支援）へのアプローチ

(6) 精神保健分野の中で今後取り上げたいテーマ、内容

- ・児童生徒向けの講演等（例：SOS の出し方教育）
- ・ひきこもりについて
- ・社会福祉と社会教育
- ・専門職の養成と研修
- ・精神科医療での本人のみならず、生活における支援の重要性をどうアプローチしていくか。
- ・地域移行地域定着の推進

(7) その他意見や感想

- ・にも包括を普及していく目的ならば、精神を対象としていない相談支援事業所にも対象を広げてはどうか
- ・家族会の話が一番印象に残りました。
- ・対象者を明確にした上で再度議論に上げてほしい。
- ・タブレットで本人の状態が見える化して表面と内面と本人の状態を知るという学校の対応など活かせることが多くあるように思えた。